

ZENBUTSU

# 全仏



No.  
504

仏暦2547年12月  
[2004年]



## 災害お見舞い

台風・豪雨、新潟県中越地震で大きな被害が生じております。  
被災されました皆さまには、心よりお見舞い申し上げます。

## CONTENTS

- 報告——— 都道府県仏教会代表者会議  
平成17年11月全日本仏教徒会議滋賀大会開催決定  
教化セミナー「いま、子どもたちがあぶない」開催  
世界仏教徒連盟(WFB)執行委員会が開催される  
真言宗豊山派鳥居愼譽管長晋山式  
本会「救援基金」へのご協力をお願い  
事務総局録事



財団法人 全日本仏教会  
Japan Buddhist Federation  
世界仏教徒連盟(WFB)日本センター  
Japan Regional Center of World Fellowship of Buddhists

■ 本会主催 教化セミナー ■

# いま、子どもたちが あぶない

## 急増する幼児・少年事件を通して 心のあり方を見つめる



昨今、子どもに関する悲惨な事件が毎日のように報道されています。事件に巻き込まれた子ども、あるいは事件を起こしてしまった子ども、そして家族の苦悩は計り知れないものでしょう。「いのち」の尊さを子どもたち、そして世の中に訴え、共に学びましょう。



(左より、岸本氏、館盛師、富田氏、吉田氏、神谷氏)



コーディネーター

岸本 洋平氏 (ジャーナリスト)

パネリスト

神谷 信行氏 (弁護士)

富田富士也氏 (子ども家庭教育フォーラム代表)

吉田 博子氏 (淑徳短期大学社会福祉学科教授)

館盛 寛行師 (曹洞宗大本山総持寺カウンセリング担当) (社会部文責)

十月二十九日九時三十分より、品川のホテルパシフィック東京で本会主催による教化セミナーを開催した。

里見達人本会理事長が三帰依文明唱の後、「大乘仏教は人が共に生きることとを命題としています。全日本仏教会としても社会の動きに無関心ではいられません。現代社会の大きなテーマとして子どもの問題が浮かび上がっています。その問題について先生方とともに考えていきたい。」と挨拶した。

講師の紹介の後、コーディネーターの岸本洋平氏より、問題提起として子どもたちを取り巻く環境・子どもたちが犯した行為(犯罪)の増加や子どもたちが被害にあった事件の具体的な数字、幼児虐待やその問題を預かる児童相談所の相談員の不足を指摘。

続いてパネリストの館盛寛行師は、親子関係・家庭の機能を根本に考えていかなければならない。三帰依文に「自ら僧に帰依したてまつる」とあるが僧とはサンガを指し、共に生きる・支え合う仲間という意味から、問題に直面した時に帰って行ける所でもある。親が命の大切さ、お互い支え合う心をも一度見直さなければ子どもの問題に辿り着かないのではないか。家庭をサンガにしていかなければならない。

富田富士也氏は、引きこもりとは相手とやりとり出来ない、つまり人間関

係を構築できない人達である。昭和四十年頃の世代(十五歳〜三十五歳)から主体性の欠如が見受けられ、人との係わりを持たず自己愛の状態にいる若者が多く見受けられる。この若者の共通点は、①自己肯定観(自分が人から必要とされているという実感)、②関係性の希薄化(他者との係わり)、③共感性の欠如(相手の立場にたつ)である。この三つが希薄になった子どもたちは、集団や社会から身を遠のけるがリアリティーを求めている。つまり、さみしいということである。これに乗る越える為には、心が傷つくリスクを背負って現実に向き合う必要がある。

吉田博子氏は、子どもや大人がソーシャルスキル(人間関係を円滑にする能力)を学んでいける場を造らなければならぬ。また、ヘルピング(人を助ける能力)を身につけ、自ら行動を起す為の一步を踏み出すことが大切である。子どもは、親から期待されたことを返そうと努力しているが、親は生活のあらゆる場面で気を配り、「ありがとう・よくできたね」と子どもをちゃんと誉めることも大切である。

神谷信行氏は、現在、自立援助ホームの社会福祉法人青少年と共に歩む会「憩いの家」の役員をしており、養護施設を出て行き場のない子どもや、少年院を仮退院をした子ども、家庭裁判

所で審理中の子どもを預かっている。その経験から、神戸の事件の加害少年も幼少期に医者に預ける前に自立援助ホーム(全国で約三十カ所)で、普通の生活を取り戻すことが必要ではなかったか。また、子どもの凶悪化が云われているが、昭和二十年代末の犯罪数統計を見ると、現在に比べ約四倍も多い。

●佐世保の事件で加害者の子どもがチャットを居場所にしていたという報道から、最近の事件ではパソコン・ゲームが子どもたちの心理形成、性格形成・行動力に悪影響を与えているか？

〈神谷氏〉 佐世保の事件でパソコン(ネット)が犯罪に及ぼす影響を強く指摘しているがそれは逆である。加害少女は、審判決定の理由の中で示されているとおり、共感性が乏しいということが根本にあるが、自分の感情をコントロールできないのである。ネットの中に自分の居場所をつくり、その居場所を被害者に荒らされたという感情から事件を起したのである。ネットをやっていたから事件を起したのではないと思う。マスコミの情報を鵜呑みにせず、正しく見ることが大切である。また、ゲームの中には自己犠牲や愛や友情をテーマにしたものもあり、すべてが悪いわけではない。

〈館盛氏〉 子どもの頃ゲームを通して友達とコミュニケーションしていた。

ゲームではリセットできるが、現実とは違う。ゲームをストレスの現実逃避の場としてはいけない。

〈吉田氏〉 自分の問題に直面する時間を大事にしてほしい。ゲームの中のストーリーではなく自分自身のストーリーを考えてほしい。

〈富田氏〉 今の子どもは寂しさのすり替えにパソコンにはまってしまう。その中では自分の思いどおりになるが、現実にはそうはいかない事実気づいてほしい。カウンセリングの現場では、会話をする楽しみに気づく子どもが多い。

●学校の現状については？

〈吉田氏〉 小学校から学年が上がるに従い学校の楽しさが薄れていると言われている。今の学生は友達との関係にすぐく気を遣っており、友達の気持ちを傷つけること、自分の孤立化や自分が傷つくことを嫌う傾向がある。自分の気持ちを出さない子どもが増えており、新しい人間関係を創るのが苦手である。米国の小学校では、一クラス・十五〜十六人の少ない人数で、高校生や中学生が定期的に訪問したりする。先生は国語・算数は勿論ですが人の話を聞く姿勢や、人との対話の中で相手を尊重することを身を以て教えている。

●子どもたちを追い込んでいる他の要因は？

〈神谷氏〉 さまざまな要因が考えられるが、その一つにテレビの影響も考えられる。ドラマの途中で入るCMが感情を分断し、感情の流れを回避させ喜怒哀楽が薄まってしまっている。

●幼児虐待の撲滅に行政や社会は取り組んでいるが、幼児虐待の実態は？

〈吉田氏〉 幼児虐待は過去十年で約二十倍に増えており、平成十年頃から問題視されてきた。子育てを全然楽しくないという親は約一割にのぼり、配偶者が育児に協力的でないと約二十六%が楽しくないと答えている。そして、第一子に対する親の期待が過大であり、思い通りにいかないというストレスから不満を抱く傾向がある。周りのサポートが特に必要である。

●宗教界や私たちが今後どんな役割を果たしていけるか？

〈館盛氏〉 各地の寺院での取り組みとして、子ども坐禅会や夏休み子ども会を行っている。お寺は様々な人が集まり、情報が集まる所である。ネットワークの起点となつて子どもたちが話したり聴くことができるのではないかと。〈富田氏〉 偏差値世代の子どもたちは理屈でないと納得しない。しかし、理屈だけでは割り切れないことがあるという話を理解させなくてはならない。素の自分を話しその中で受け入れられること、人間は一人ではないということ

とをわかってもらうことである。

〈吉田氏〉 大人も子どもたちも人間関係を損得でみている。何をしなければならぬかより、何をすれば得かと考える。どんなにしんどくても人を信じる心を子どもたちにも分かってほしい。

〈神谷氏〉 お寺はいづれでも訪れた場所である。自立援助ホームを全国に増やしてほしい。また、費用が掛からないチャイルドラインの開設も考えて欲しい。チャイルドラインとは、子どもの話を聴く窓口で、近年増えてきたが、寺院で聴き取りてを育て、親にも言えない、先生にも話せない子どもたちの声を聴き、心と心を結ぶ、一本の命の糸をつないでほしい。

また、当セミナー出席者の前田武志参議院議員(民主党)から、教育の問題について、全国各地のお寺が地域の中で子どもの居場所を提供できるのではないかと。そういう運動の口火をお寺に切ってほしいという意見があった。今回当セミナーでは、子どもの問題に焦点を据えて取り上げたが、実は大人である私たちが考えていかなければならない問題であります。今後も同種のテーマで各方面の専門家を交え、お寺が果たす役割を考える機会となるよう、各地でセミナー等が開催されることを望みます。

## 都道府県仏教会代表者会議

平成十七年十一月十六・十七日

## 全日本仏教徒会議滋賀大会開催へ

十月二十八日、ホテルパシフィック東京を会場に都道府県仏教会代表者会議が開催された(二十団体二十七名出席)。三帰依文を唱和の後、里見達人理事長が挨拶を行った。座長に、東京都仏教連合会理事長の大谷博通師が選出され、議事に入った。

## 協議事項

一、第三十九回全日本仏教徒会議開催について

次回仏教徒会議の開催地候補として滋賀県、福岡県、長野県の三団体が上がっており、事務総局としてはそれぞれの仏教会と連絡を取りながら開催に向けた折衝を経て企画概要の調整を行い、滋賀県で開催する方向で纏まった経緯が説明された。滋賀県での第三十九回全日本仏教徒会議開催を諮り、満場一致で了承。田中始更滋賀県仏教会副会長並びに前阪良憲事務局長から日程概要等について説明があり、滋賀大会は平成十七年十一月十六日(十七日大津市での開催を予定)。

また、今後の全日本仏教徒会議の開催は、企画立案準備等を鑑み二年を基

本として、その時の事情に応じて最低三年に一回の開催で了承された。

二、各地区ブロック制の導入について  
ブロック制については前回会議から継続審議となっており、全国を七ブロックに分けて順に全日本仏教徒会議開催を担当していくという案である。主に経費の問題や未加盟県が多いブロックでの開催が難しいことから、どうしたら継続的に開催できるか協議を行った結果、継続審議として次回会議に再度提案することです承された。

## 報告事項

都道府県仏教会の活動報告として

①アンケート集計報告、②鳥取県の宗教学法人情報開示について、③各仏教会活動報告(青森県・静岡県・岐阜県)がなされた。

本会からの報告事項として①公益法人制度改革の進捗状況について、②改革推進委員会審議状況について、③財団創立五十周年記念事業準備委員会について、④ルンビニー園マヤ堂復興事業の終結に向けて、それぞれ担当者より詳細な説明がなされた。

## 第39回 大阪府仏教徒大会

十一月十日、ホテル日航大阪で大阪府仏教会主催の第三十九回大阪府仏教徒大会が、「宗教と政治」日は昇るのか」と題し開催された。政治と宗教に関する五回目の企画である。

式典では三帰依文唱和の後、増田貞圓大阪府仏教会会長が、挨拶の中で内外の諸問題について触れ「私たちは戦後六十年、経済的繁栄を一度は得たものの、それとは引き替えにかけがえない大切なものを失ってしまったのではないか」と述べた。次に来賓代表として、齋藤明聖本会事務総長が祝辞を述べた。

シンポジウムでは、前田武志氏(参議院議員・民主党)、麻生弘道師(大阪府仏教会会長)、川崎泰資氏(相山女学園大学教授)、増田貞圓師らが、戦後六十年の反省を含め、政治・宗教・教育の未来、あるべき姿について、それぞれの意見を述べ、徹底討論が行われた。

約五百人の参加者も熱のこもったシンポジウムに聞き入り盛会の内、終了した。その後、同ホテルで懇親会が開催された。

## 第51回 全日本仏教婦人連盟大会

十月二十六日、東京・帝国ホテルで第五十一回大会が開催された。

大会に先立ち、鷹司誓玉名誉会長(善光寺大本願法主)導師のもと、全日本尼僧法団による記念法要を厳修し、出席者による献花が行われた。

開会の挨拶で大賀美都子会長代行は、子どもが犠牲になる事件の多さを憂い「仏教婦人の立場から協力していきたい」と語り、続いて里見達人本会理事長が来賓の挨拶を述べた。次に、インドブッタガヤの日本寺境内にある無料診療所「光明施療院」の運営の基となる写経運動の報告があり、山田一真国際仏教興隆協会理事長へ写経が手渡された。後日、日本寺での法要の後、納経される。そして、舞台上で各宗派の御詠歌が唱えられ平和を祈った。



各宗派の御詠歌を唱え平和を祈った

# 世界仏教徒連盟(WFB)

## 第69回執行委員会が開催される

### ●仏教の果たす社会的役割とその具現化にむけて

報告 WFB執行委員  
国際委員会委員 戸松 義晴



ワナミッティ会長(前列中央)、パロップ事務総長(後列中央)  
戸松義晴執行委員(後列右より4番目)

十月二十九日より三十日まで、タイのバンコク・クイーンズパークホテル(世界仏教徒連盟(以下WFB)本部と隣接)において、第六十九回執行委員会が開催され、本会から、壽山良光

国際文化部長、北折真一国際文化部長、および、私、WFB執行委員・本会国際委員会委員、戸松義晴が出席した。

二十八日午前に成田を出発し、執行委員会に先立ってWFB事務総長パロップ・タイアリー氏および、WFB副事務総長パトラポーン・シリカンチャナ氏と夕食を共にし、今回の会議に必要なブリーフィングを持ち、お互いに意見交換を行い相互理解を深めた。

翌二十九日には、第六十九回執行委員会が朝九時より開催され、まず前回台湾で行われた、第六十八回執行委員会の議事録・事業会計報告およびその承認が行われた。

続いて重要な議題の一つである、「仏陀の肖像の濫用」の問題が議論され、特にハリウッドの映画で、仏陀の頭部に若者が乗っているポスター等具体例

が挙げられた。小生は全仏の取り組みおよび、各国が協力して情報交換ならびに啓蒙活動を行なう重要性を述べた。

次にWFBへの新規加盟および不活動センターの処遇に関して、会費五年以上未納入団体の会員名簿からの削除および、加盟申請団体に関しては、各地域の副会長・執行委員を中心に精査し、承認することを決定した。

また次回第二十三回世界仏教徒会議の開催地として、カナダが候補地としてあがった。さらにその次の二〇〇七年度世界仏教徒会議開催地として、インド・ブッダガヤおよび韓国からの意思表示がなされ、継続審議事項となった。

そして、今回の執行委員会の最重要課題である規約改正案について、二日間にもわたり活発な議論および検討がなされた。規約改正の目的は、WFBおよび加盟センターが現在の世界の諸問題に対して、仏教徒として問題解決のために主体的に取り組める機能的な組織とするためである。

具体的には、①十六人の副会長を五つの地域センターより選挙にて選出し、執行委員および各委員会の委員長として、WFBの運営に積極的に関与すること。②WFB憲章に仏教徒の智慧・慈悲にもとづく非暴力・寛容・共生の理念をもって、世界平和・環境問題な

ど人類の重要課題に取り組むことを明記する。③執行委員会の役割の強化、未来への展望と社会的使命が新たな項目として加えられた。

特に①の副会長選出の件では、新規約では全地域センターが投票権を持つ民主的な選挙で選ばれるため、地域センターの数によってきまる。しかしそこには各センターの実情および仏教徒の数は反映されない。全仏はこの問題を強く主張し、規約に地域センターの数およびセンターの持つ仏教徒数を考慮して副会長を選出するという一文を新規約に明記させた。

小生は執行委員として、はじめてWFB執行委員会に参加して、事務局および各執行委員の、仏教の社会的役割の強化への真摯な取り組みに深い感銘を受けた。朝食から休憩時間、および夕食時まで、途切れることなく上記の内容について議論がなされ、私たち参加者三人は日本語で話すこともままならず、何を口にしたのかもわからないほど、会議に集中した。その中で特に感じたことは、本部役員ならびに各執行委員より、現代の諸問題に対してぜひ、日本の仏教徒および全日本仏教会がWFBの中でも指導的・中心的役割を担い、憲章に盛り込まれた仏教理念の具現化に努めてほしいという期待があった。

## 真言宗豊山派 鳥居愼譽管長晋山式

十一月九日、奈良県櫻井市の総本山長谷寺で鳥居愼譽管長の晋山式が厳かに執り行われた。

晋山式は、真言宗各派各山本山会はじめ全国各地の所縁寺院の諸大徳、檀信徒が多数参列し鳥居管長の就任を祝った。

また、同日行われた都ホテル大阪での祝賀会では、約六百五十名が出席し、浅井侃雄宗務総長の挨拶の後、来賓挨拶として、真言宗各派総大本山会・真言宗長者である片山宥雄真言宗大覚寺派管長、里見達人本会理事長が祝辞を述べた。さらに、祝宴の中で、謡曲「鶴亀」、古箏「魚船唱晚」、二胡と古箏「賽馬」が披露され、美しいしらべが日本の慶賀を讃えていた。



祝賀会で挨拶する鳥居管長

## ネパール王国 マナダール議員が来局

十月二十七日、ネパール国会議員ラクスミ・ダス・マナダール氏が本会を表敬訪問され、齋藤明聖事務総長・本会国際文化部と懇談した。

氏は十一月三十日から十二月二日まで、ネパール王国ルンビニーで開催される、「第二回世界仏教徒サミット」の財政委員長でもあり、参加要請のため、アジア各国を歴訪中であつた。

本会から、来春刊行を目前に現在制作している、ルンビニー園マヤ堂考古学発掘調査報告書へのネパール王国ギヤネンドラ国王の挨拶文の寄稿を依頼。また、マヤ堂内に考古学調査の記念プレートを設置する件についても協議が行われた。



マナダール氏から記念品を受け取る齋藤明聖事務総長

## 不登校・ひきこもりに悩む青少年のケアを目的 「てらネットE.N」が設立される

十月十九日、「てらネットE.N」(全不登校・ひきこもり対応寺院ネットワーク)が設立された。設立に先立ち十八日、記念シンポジウムが築地本願寺を会場に二百五十名が集い開催された。

「てらネットE.N」とは、不登校やひきこもりに悩む青少年たちのケアを行っている全国の寺院・団体をつなぐネットワークで、現代社会の中で若者が直面している心の問題に対処するための組織。現在、十二の寺院と五団体が参加しており、(財)

全国青少年教化協議会(全青協)が中心となり準備が進められてきた。第一部では、ネットワークの活動を紹介すると共に参加している寺院や団体の活動が紹介された。

第二部においては、教育評論家で法政大学教授の尾木直樹氏を講師に迎え「不登校・ひきこもりの現状と課題」と題して基調講演が行われた。尾木氏は、現状の報告と共に、主な相談ポイントとして「ありのままの自分を愛せるか。今を輝いていこう(自信を持つこと)。慌てず焦らず落ち

着いて」と三点を掲げた。次に元当事者、二人からの提言では、両者ともいじめが原因でひきこもりになったと述べた。そして、親にして欲しいこととして「必要以上にプレッシャーをかけないこと」「本人が考える時間的余裕を与えること」「自分たちがしていることが本当に正しいか考えて欲しい」などと語った。

続いてパネルディスカッションは、「第三者および地域社会による支援のあり方」と題して、尾木氏、野田大燈師(社会福祉法人四恩の里・香川)、清水谷善英師(愛和会・兵庫)と和田重良氏(くだけかけ生活舎・神奈川)の四人をパネリストに行われた。その中で野田師は、「本人がひきこもりから本当に抜け出したいかどうかが必要になる。本人一人だけでなく家族全体の問題として考えることが大切である」と述べた。

### 【問い合わせ先】

てらネットE.N相談窓口・事務局  
電話〇三・三五四一・六七七七  
(毎週火・金曜一〇時〜一七時)

<http://www.teranet-en.org/>

# 事務総局録事

## 十月(十一～三十一日)

- 十二日▼事務総局局内会議
- 十三日▼「同宗連」行政責任者研修会
- ▼国際委員会
- 十四日▼真宗大谷派難波別院へ打合せ
- ▼法律相談室
- 十五日▼宗教法人実務研修会出席
- ▼日蓮宗・公益法人制度改革に関する研究会出席
- 十八日▼「てらネットEN」設立記念シンポジウム出席
- ▼菊池法純ルンビニー委員会顧問来局
- 十九日▼平成十七年度事業予算大綱検討局内会議
- 二十一日▼日宗連幹事会
- 二十二日▼財団設立五十周年記念事業準備委員会
- ▼WFB執行委員会事前打合せ
- ▼朝日新聞社記者来局
- 二十六日▼全日本仏教婦人連盟大会出席
- ▼事務総局局内会議
- ▼文化庁訪問
- 二十九～三十日▼WFB世界仏教徒連盟執行委員会出席(バンコク)
- 二十八日▼都道府県仏教会代表者会議

## 二十九日▼教化セミナー ▼法律相談室

## 十一月(一～十日)

- 二日▼宗教教育推進特別小委員会
- ▼法律相談室
- 五日▼事務総局局内会議
- ▼日本曹溪宗事務総長来局
- 六日▼京都府仏教連合会・仏教講演会出席
- 八日▼第五回改革推進委員会
- 九日▼真言宗豊山派鳥居慎譽管長就任祝賀会出席
- ▼ミヤンマー公使来局
- 十日▼人権啓発研修会
- ▼大阪府仏教徒大会出席

## 人事

### 就任

理事 葦原正憲(曹洞宗)  
評議員 乙川暎元(曹洞宗)

信教の自由に関する委員 泉山益宣(青森県仏教会)

税務委員 乙川暎元(曹洞宗)  
宮崎英輝(曹洞宗)

ルンビニー委員 葦原正憲(曹洞宗)

改革推進委員 志保見道元(曹洞宗)  
国際委員 小林千秋(曹洞宗)  
総務委員 山下昭文(曹洞宗)  
宗教教育推進委員 葦原正憲(曹洞宗)

### 退任

理事 河村松雄(曹洞宗)  
評議員 佐藤良彦(曹洞宗)

信教の自由に関する委員 佐藤良彦(曹洞宗)

税務委員 河村松雄(曹洞宗)  
ルンビニー委員 河村松雄(曹洞宗)

改革推進委員 荒澤義範(曹洞宗)

国際委員 伊東俊彦(曹洞宗)  
総務委員 菅野斌允(曹洞宗)

宗教教育推進委員 菅野斌允(曹洞宗)  
菅野斌允(曹洞宗)

宗教教育推進委員 菅野斌允(曹洞宗)

宗教教育推進委員 菅野斌允(曹洞宗)

東寺真言宗管長

## 哀悼

鷺尾隆輝師

十月十五日遷化 八十八歳

## 無料法律相談室

長谷川正浩顧問弁護士による、無料法律相談を毎月第二、第四木曜日の午後開催しております。本会事務総局03(3437)9275へ事前予約の上おいで下さい。

## ルンビニー園マヤ堂修復事業 篤志支援者ご芳名

現在、本事業大詰め作業である「マヤ堂遺跡考古学発掘調査最終報告書」の発刊等に鋭意努力しております。

長期に亘る難事業推進のため、事業資金が不足を来たしており誠に恐縮ですが皆さまに事業資金のご支援をお願い申し上げます。

### 京都仏教会様

金、百萬元

〔篤志の振込先口座番号〕

\*郵便局〇〇一三〇一六一三七六〇〇

加入者名 財団法人全日本仏教会

\*銀行口座三井住友銀行浜松町支店

普通預金口座 七七〇三五八

口座名義財団法人 全日本仏教会

※振込手数料を差し引いてお振込下さい。

●本件に関するお問い合わせ

(財)全日本仏教会事務総局国際文化部

電話〇三(三四三七)九二七五

### 本会ホームページに

加盟団体行事を掲載させていただきます

●情報を随時募集です

当ホームページを加盟団体の情報提供の場としてご利用下さい。

①法要 ②法話・布教

③坐禅・修行 ④写経・写仏

⑤展覧会 ⑥公演

⑦講演会・講座・研修会

⑧縁日 ⑨その他



【お問い合わせ・お申込】  
本会社会部宛にご連絡下さい。  
電話 03-3437-9275  
URL: http://www.jbf.ne.jp

## 救援基金へのご協力をお願い



立ち入り禁止の札を掛けられた山門  
(小千谷市：慈眼寺・真言宗智山派)

本年の日本各地は、多くの台風が上陸し、広範囲の地域が度重なる風水害の罹災をいたしました。また、十月二十三日夕刻、新潟県中越地域を襲った大規模地震は、本会加盟団体所属寺院はもとより、周辺市町村の住民と家屋、道路、電気、ガス、水道等に甚大な被害をもたらしました。

被害状況は、死者三十九人・負傷者約二七〇〇人、家屋被害は全壊も含め一八〇〇〇棟以上にのぼっております（十一月十日現在消防庁調べ）。各寺院の被害状況は、現在調査中ですが数百カ寺が被害に遇われているようです。現在は、政府、新潟県のほか民間や仏教系NPO団体の救援活動が始まり、各宗派の調査団や青年会が現地に入り、被災住民への食料、生活物資なども搬入されております。しかし、中越地域は、県内有数の豪雪地帯でもあり、寒

## 日本全国で災害が多発

気と雨露をしのぐ住宅建設、ライフラインの復旧など一日も早く、平常の生活を取り戻せるよう切に願う次第です。

本会では、国内外における災害支援や人道的支援等に対し、緊急且つ迅速な支援対応をすべく、救援基金口座を開設しております。加盟団体、各寺院、檀信徒、門信徒のみならずの救援のご寄付を宜しくお願いいたします。また、十一月一日に新潟県仏教会へ見舞金三十万円を寄託いたしました。

尚、お寄せ頂いた救援基金は被災地域へのお見舞い、救援費など状況に応じた支援をいたします。

救援金の送付は左記の要領でお願い致します。

記

郵便振替口座  
口座名義 財団法人全日本仏教会  
口座番号 〇〇一三〇一六―三七六〇〇

お問い合わせ  
財団法人 全日本仏教会事務総局  
電話 〇三三―四三三七―九二七五  
FAX 〇三三―四三三七―三二六〇

〔寄付者〕 〔十一月十日現在〕  
・時宗・日本仏教讃仰会  
・全日本仏教婦人連盟・山梨県仏教会  
・愛媛県北条仏教会・東京都慈眼寺  
・真言宗泉涌寺派  
・本会教化セミナー参加者一同  
(合計八二〇、一七六円)

## 全日本仏教会オリジナル ●仏旗色腕輪念珠頒布のご案内



お釈迦さまの教えを守り、仏の道を行んで行く時の大きな旗印である仏旗の5色を組み入れた腕輪念珠、ブレス念珠を作成いたしました。

子供用・大人用をご用意しておりますので、各種慶弔、入園・卒園等の記念品としてもご利用下さい。



(プラスチック腕輪念珠)



(星月菩提ブレス念珠)

材質はプラスチック、水晶、星月菩提珠、虎目石。価格300円～2000円、子供用・大人用各種ご用意しております。

詳細は本会財務部へお問い合わせ下さい。

## 新潟・福井・福島各県の 集中豪雨に対する救援金のご報告

本会は、7月13日からの新潟県・福井県・福島県における集中豪雨に対する救援基金のお願いを加盟団体の皆さまに呼びかけてまいりました。ご協力ありがとうございました。

各県仏教会には、見舞金として各30万円を送金し、さらに新潟県・福井県の救援災害対策本部宛に各50万円を送金させて頂きました。それに対し、平山征夫新潟県知事、西川一誠福井県知事から礼状を頂戴いたしました。

今後も仏教精神を基調に全一仏教運動の展開と世界平和の進展に寄与することを目的に国内外の救援に努めてまいりますので、引続き救援基金へのご協力をよろしくお願いいたします。

### 〔寄付者一覧〕

天台寺門宗 全日本仏教婦人連盟 臨済宗相国寺派 黄檗宗  
青森県仏教会 山梨県仏教会 真言三宝宗 静岡県仏教会  
群馬県仏教連合会 岐阜県仏教会 西教寺(天台眞盛宗)  
徳島県仏教会 時宗 金峯山修験本宗 滋賀県仏教会  
真言宗国分寺派 光明寺(西山浄土宗) 信貴山真言宗  
和宗 円覚寺日曜説教会(臨済宗円覚寺派) 真言宗中山寺派  
真言宗御室派 長野県仏教会 天台宗 香川県仏教会  
東京・明順寺 全日本仏教会職員会 〈順不同〉(10月15日締切)

(合計 2,035,880円)